

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

Alternative Voices : modernist women poets of the 1920s and 1930s

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 辻本, 庸子, Tsujimoto, Yoko メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1203

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



もうひとつのモダニズム — 1920 年～30 年代の女性詩人たち —

必ずしもアメリカ詩を専門としない者たちが、同じテキストを持って集い、詩を味わい、詩について語りあう。この小冊はそういう希有な時間をともにした研究班の2年間の活動をまとめたものである。時には外部からスペシャリストの友人たちにおいで頂き、お話も聞かせていただいた。それもとても貴重な経験であった。

現代詩人にとって 20 世紀初頭に活躍したモダニストたちは、大きくたちはだかる「巨人、化け物」だと言われる。しかしそのときの、「モダニスト」と呼ばれる人たちの中に何人の女性が含まれるだろう。T・S・エリオット、エズラ・パウンド、ウォレス・ステューヴンズ、W・B・イエーツなどなど。その巨星の輝きの強さに圧倒され、女性詩人たちが十分に輝いているとは言い難い。そして十分に研究されているとも言い難い。散文以上に女性たちが参入することの困難だった詩の世界。しかし彼女たちはそこで叙事詩への挑戦や、新たな詩領域の開拓など様々な試みに力をつくした。本共同研究においては、これら女性詩人たちの成果を、点としてとらえるのではなく、線としてとらえることを念頭においた。そのために、対象とした詩人は、20 年代、30 年代に限定することなく、20 世紀初頭から 20 世紀中期までをカバーしている。これらをどのように「モダニスト」というカテゴリーに収斂させていくかは、今後の課題である。さらに今回はアメリカ詩人のみを取り扱ったが、同時代のイギリス女性詩人たちも視野におさめることも必要だろう。2 年間の活動に十分な手応えを感じつつ、これからの課題もあきらかになったことを嬉しく思う。

本叢書の公表に際し、2 年間にわたり本班にこの研究の機会を与えてくださった神戸市外国語大学に対して、心から謝意を表明したい。

(2011 年 12 月 辻本記)